

小學修身鑑
卷八

大日本教育會館
一九一八年
函架號冊

66
493

K110,1
293
8

吉田利行編輯

版權免許

小學修身鑑

星文館藏版

明治十九年四月二十三日
小學修身鑑卷之八

第一 孝行

吉田利行編

乳哺三年ノ間父母ノ苦勞其數ヲ知ラズ入學ノ年ニナリヌレバ師ヲ求メ道ヲ教ヘ藝ヲ習ハシオ徳ノ人ニ勝レント願ヒ巴

- ① 哀々タル父母我ヲ生ミテ劬勞セリ 詩經
- ② 總テ父母一生ノ營

小學修身鑑

卷之八

星文館

ニ有室ノ年ニ至リヌ
レバ枕儼ヲ求メ家業
ヲ立テ、富ミ榮エン
トヲ謀リ願ヒ其才徳

人ニ優リ仕合セモ善ク榮エヌレバ限リナク喜ビノ眉ヲ
開キ若シ又才徳モ人ニ劣リ仕合セモ人ニ劣リヌレバ起
キ臥シ絶エズ歎キトナセリ父母斯ノ如クノ慈愛斯ノ如
クノ苦勞ヲ積ミテ子ノ身ヲ養ヒ育テヌレバ人ノ子ノ一
身毛一筋ニ至ルマデ父母千辛万苦ノ厚恩ナラザルハナ
シ翁問答

③父母ノ年ハ知ラザル可ラザルナリ一ハ則以テ喜ビ一
ハ則以テ懼ル 論語

ニ何事カ子ノ為メニ

セヌ事ヤアル 六論行 義大意

③父母ノ齡傾キヌレ
バ万ノ事物憂ク思ヒ
給フ故見ルニ付ケ聞
クニ付ケ朝夕心セワ
シクシテ不興ニ見え
給フ一モアリ或ハ老

③凡人ノ子タル者ハ

巳日ニ長ズル一一日

ナレバ父母日ニ老ユ

ル一一日ナルヲ知ル

ベシ 同上

事モ悲ミテイト愚ニ
見エルモアリ子タル者父母ノ斯ク老イ給フヲ見テハ彌
力ヲ盡シ面色喜バシク容貌柔カニ唯父母ノ御心ニ適フ

ヤウニシテ老イノ物憂サヲ慰ムベシ喻草

④父母病メル片ハ猶更孝養ヲ盡スベシ况ンヤ耳聞エズ
眠見エズ或ハ手足叶
ハズシテ其身ノ不自
由ヲ苦シミ世ニ在ル
甲斐モナシト死ヲ甘
ンズル様ニテイト心
細ク見ユルハ彼ノ方
ヨリ言ヒ出シ給ハザ
ル内ニ此方ヨリ氣ヲ
付ケ懇ニ事ヘ餘所ニ
テ聞キシ一或ハ見シ

④父母死シテ後ハ孝
ヲ盡ス一成リ難キヲ
豫子テ能ク考ヘ後悔
ナカラシ一ヲ思フベ
シ 童子訓

一ナドホキ解ケテ物語リシ心ノ憂サヲ慰ムベシ喻草

⑤酒醴奠酢スルモ親ヲ強ヒ一溘ヲ嘗メシムル一能ハズ
故ニ其敬ヲ無形ニ致
サンヨリハ懼ビテ眼
前ニ承クルニ若カズ
心ヲ今日ニ傷マシム
ルハ意ヲ當時ニ用フ
ルニ知カズ要吉類纂
⑤范文正公參知政事
トナル時諸子ニ告ゲ
テ曰吾貧シキ時汝が
母ト吾親ヲ養フ汝が

⑤一タビ失ヒテ再タ
ビ得可ラザル者ハ父
母ナリ人ノ子タル者
之ヲ思ハバ如何テ孝
心ヲ起サバ六ルベキ論

行義大意

母躬ヲ爨ヲ執ル而シテ吾親甘旨未ダ嘗テ充クザリシ今ニシテ厚祿ヲ得タリ以テ親ヲ養ハント欲スレバ親在サズ汝ガ母モ亦已ニ蚤世ス吾最恨ム所ノ者ハ忍ビテ汝ガ曹ヲシテ富貴ノ樂ヲ饗ケンムルコトナリ

六 内ニ在テハ孝ヲ盡シ外ニ在テハ悌ヲ盡シ朋友ノ交ハリニハ信ヲ盡ス三ツノ者ハ孝ノ至ナリ 塩鉄論

六 孝子ノ親ニ事フルヤ居レバ則其敬ヲ致

六 父母若シ遠方ニ在サバ則勤メテ信書ヲ致シ其安否ヲ問ヒ心常ニ之ヲ思ヒ憂愁戀

憶セヨ 童子習

シ養フニハ則其樂ヲ致シ病メバ則其憂ヲ致シ喪ニハ則其哀ヲ備ハリテ然シテ後能ク其親ニ事フ 孝經

七 子若シ遠キニ在テ親病ミスト聞キナバ早ク歸リテ介保スベシ又親他境ニ在テ病ミ給ハハ急キ行キテ介保スベシ 喻草

八 其尊ベル所ヲ敬ヒ其親メル所ヲ愛シ死ニ事フルト生ニ事フルカ如ク亡ニ事フルト存ニ事フルカ如ク

七 父母若シ病アラバ晝夜帶ヲ解カズ他事ヲ棄テ、看病シ醫藥

ス孝ヲ至ナリ 中庸

⑧ 生ケルニ之ニ事フ

ルニ禮ヲ以テシ死ス

ルニ之ヲ葬フルニ禮

ヲ以テシ之ヲ祭ルニ

禮ヲ以テス 論語

⑧ 今人賓朋ノ宴會ニ

ハ必豊潔ヲ務メ水陸

ノ殊品ヲ窮メ然ル後

敬ト爲スニ至ル乃チ

祖宗ノ祭享ニハ多ク

苟簡ニ從フ甚シキ者

ハ時ヲ失フテ擧ゲズ

晏然自ラ安ンズ生キ

テ疎キ者ニハ其歡ヲ

結ビ死シテ親シキ者

ニハ其報ヲ忘ル此之

ヲ類ヲ知ラズト謂フ

ナリ 言行要纂

⑧ 夫水ニ源アリ其源

ヲ塞ゲバ則流絶ユ木

ニ本アリ其本ヲ伐レ

バ則枝枯ル祖宗ハ子

孫ノ本源ナリ本源ヲ

ノ事ニノミ心ヲ盡ス

ベシ 六論行義大意

⑧ 凡孝ノ道ハ父母存

生ノ間能ク事フルノ

ミナラズ父母死シテ

後終リヲ慎ミテ葬ヲ

厚クシ

遠キヲ追ヒテ時節ノ

祭り怠ル可ラズ又我

身ヲ終ルマデ父母ヲ

思ヒ慕ヒテ忘ル可ラ

ズ 初學訓

乘テバ何ヲ以テカ昌エン 訓俗遺規

父母在セバ敢テ其身ヲ有セズ敢テ其財ヲ私セズ 禮記

九 父母舅姑ノ教年危匪ハ餽シニ非ザレバ敢テ用フル
莫レ恒ノ飲食モ餽シニ非ザレバ之ヲ敢テ飲食スル
レ同上

九 子婦ハ私貸ナク私

蓄ナク私器ナシ敢テ私ニ假サズ敢テ私ニ與ヘズ 同上

九 子孫タル人吾親先

祖ノ事ヲ知ラザルハ疎カナリ况ンヤ父祖

九 父母ノ遺セル衣服

器玩ハ子孫タル者當

ニ之ヲ愛護シ以テ追

慕ヲ忘ル、一無ルベ

シ言志錄

ノ善行武功ナドアル
ヲ其子孫知ラズ知テ
モ記シテ顯ハセザルハ愚ナリ不孝トスベシ 童子訓

第二禮節

一 禮ハ中ヲ得ルヲ貴

ブ中トハ過不及ナキ
ヲ謂フナリ 五常訓

一 牛ヲ牽キテ人ノ田

ヲ經ルニ田主之ガ牛
ヲ奪フ田ヲ經ルハ則

罪アリ之ガ牛ヲ奪フ

一 人ニ對スルニハ言

ニモ身ノ振舞ニモ禮

ヲ厚クシテ無禮ナル

モ亦甚シカラズヤ語

ベカラズ 武訓

①口ノ過ナキヨリ身ノ過ナキハ難ク身ノ過ナキヨリ心ノ過ナキ一ハ難シ三

ツノ者共ニ禮ヲ以テ正サズンバアル可ラズ五常訓

①君子ノ人ニ接スルヤ禮讓ヲ以テス故ニ争フ所ナシ初學知要

①吉人ハ目ニ非禮ノ色ヲ見ズ耳ニ非禮ノ聲ヲ聞カズ口

ニ非禮ノ言ヲ道ハズ

足ニ非禮ノ地ヲ踏マ

ズ人善ニアラザレバ

交ハラズ物義ニ非ザ

レバ取ラズ年康節

②少キ者長者ニ從ヒ

②凡外ニ出デ及ビ飯
ラバ長上ノ前ニ於テ
揖ヲ爲セ暫ク出ルト

行ク時ハ何ニテモ長

者ノ持クタル品ハ少

キ者受ケ取りテ其勞

ニ代ハルベシ日新館童子訓

②人ニ接スルノ道ハ

温和慈愛恭敬遜讓須

ク並ビ行ハレテ偏ナ

ラザルベシ夫ノ愛敬

ノ隆殺厚薄ノ如キハ

固ヨリ宜ク其人ノ貴

賤親疎ニ循フベシ然レモ至賤至疎ト雖モ其之ニ接スル

ノ道ハ愛敬ヲ以テセザル可ラズ初學知要

ト雖モ亦然リ
凡門ヲ開キ簾ヲ掲グ
ルニハ須ク徐々ト手
ヲ輕クシ響ヲ震驚セ
シムベカラズ童蒙須知

③ 人ノ書ヲ借ラバ我書ヲ閣キテ先ヅ人ノ書ヲ專一ニ見テ早ク返スベシ早ク返セバ人モ亦貸スルヲ惜マズ凡人ニ書ヲ貸セバ我用アル時事欲クアリ是ヲ以テ書ヲ借レル人ハ慮リテ早ク返スベシ 家道訓

③ 居所ヲ灑掃シ几案ヲ拂拭シ書籍筆硯凡百ノ器用皆當ニ整齊ニスベシ 童蒙須知
④ 客來ラバ我位ヨリ卑シキ人ナリトモ早

リテ獨我ヲ候ツキハ厭フ者惟主人ノミニアラザルナリ至ルキハ早ク辭スベシ人ヲシテ屢費ヲナサシムルヲ勿レ 類禮集
④ 長者坐ヲ進メ或ハ物ヲ賜フ時辭スルハ不敬ナリ常ノ交ハリニモ座席ノ高下ヲハジメ辭讓ニ過グルハ却テ失禮ナリ再タビ讓リテ先キノ意ニ隨フベシ 日新館童子訓

ク出テ對スベシ久シク待タシム可ラズ 大和俗訓
⑤ 尊者ノ前ニ居ル時他人來リテ用事アラ

母レ礼記

⑤座ニ就クニモ我身

ニ宜シキ善キ程ノ所

ニ就クベキヲ田舎人

カ又禮知ラヌ人ハ人ノ請セザルニ高座ニ上リ過ギテ見

苦ク笑フベシ吾位ヨリ下座ニ就クハ禮ニ當ラザレト大

ナル誤ニ非ズ大和俗訓

⑥凡人ノ人タル所以ノ者ハ禮義ナリ禮義ノ初メハ容體

ヲ正シクシ顔色ヲ齊

ヘ辭令ヲ順ニスルニ

在リ礼記

⑥人ノ言フ辭ヲ聽キ

入レズシテ只吾道理

ノミヲ言ヒ立テント

スルハ甚無禮ナリ人

ニモ道理ヲ言ハセテ

聽キ後ニ吾思フ所ヲ

述アベシ大和俗訓

⑦人タル者ハ平日家

中ニ在テ一言一動モ

輕卒苟且ニシテ慣了

スレバ一タビ衣冠禮

樂ノ場ニ入りテ便チ

耳目加フル所ナク手

ント思ハハ其座ヲ退

クベシ 日新館童子訓

⑥言語ハ須ク確正分

明ナラン一ヲ要スベ

シ太ダ高クスル一勿

レ太ダ低クスル一勿レ

自警篇

⑦群小兒狂奔スルモ

我ハ規矩ヲ守レ群小

兒喧噪スルモ我ハ默

シテ語ラザレ 童子習

足措ク所ナキヲ覺フ
豈耻ツ可カラスヤ程大純

⑧ 冕者ト替者トヲ見
テハ押レタリト雖モ
必變論語

⑨ 人ニ交ハルニ吾心
ト顔色ヲ和ラゲ人ヲ
侮ラザルハ是善ヲ行

フ始メナリ吾氣ニ任セテ位ニ驕リ才ニ矜リ人ヲ侮り無
禮ヲ為ス可ラズ童子訓

第三 戒慎

⑧ 隣家ニ喪アレバ快

飲高歌ス可ラズ新喪

ノ人ニ對シテハ劇談

大笑ス可カラズ紳瑜

① 世ハ海ナリ身ハ舟
ナリ志ハ舵ナリ舵ヲ

惡シク操レバ行クベ
キ方ニ行カズ風波ニ

逢ヘバ舟覆ルが如シ
志ノ持チ操肝要ナリ

惡シク志ヲ持テバ身ヲ覆ヘス大和俗訓

① 人禍ニ遭フテ禱請センヨリハ能ク已ヲ責メ惡ヲ過メ
バ則禍ヲ免ルノ理アリ天ヲ畏レ善ヲ作セバ則福ヲ獲

ルノ理アリ慎思録
② 人ノ惡ヲ行フモ過
ヲ為ルモ皆事ニ臨ン

① 忠正ハ福ヲ致スノ

本ニシテ戒慎ハ慶ヲ

集ムルノ源ナリ臣軌

② 言ヲ慎メバ禍ナシ

テ思慮セザルヨリ起
ル酒食ヲ恣ニ過ゴシ

飲食ヲ慎メバ病ナシ
初學訓

テ病ヲ起スモ其時ニ思案ナクシテ只欲ニ任セテ飲ミ食
フ故ニ病ヲ生ジ果テハ身ヲ失フニ至ル善ク思案シテ慎

ムハ欲ニ勝チ禍ヲ免ル、道ナリ大和俗訓

③存亡禍福ハ其要已ガ身ニ在リ聖人重ク誠メテ忽ニス

ル所ヲ敬慎スル所以

③言語ヲ慎ンデ以テ

③欲ハ口鼻耳目四肢

其徳ヲ養ヒ飲食ヲ節

ノ慾ノ如シ人ノ無キ

ニシテ以テ其體ヲ養

テ能ハザル所ト雖モ
然レモ多クシテ節セ

ザレハ未ダ其本心ヲ

フ

失ハザル者ハアラズ

事ノ至近ニシテ繋ル

學者ノ當ニ深ク戒ム

所至大ナル者ハ言語

③祖父徳アレモ子孫

飲食ニ過ギタルハ莫

不善ヲ為セバ未ダ禍

シ程子

敗ヲ免レズ慶何ゾコ

ゾコレ有ラン祖父不善ヲ為シニ子孫又徳ノ以テ前人ノ
愆ナラ蓋フイナケレバ則餘殃之ニ被フル司馬溫公

④人情孰カ安キヲ喜
 ビ危キヲ惡マザラン
 順ヲ喜ビ逆ヲ惡マザ
 ラン安キハ危キヲ恐
 レザレバ則常ニ易ク
 順ナルハ逆ヲ忘レザ
 レバ則常ニ順ナリ吳棟野
 ④勝ッテ好ム者ハ
 必争ヒ榮ヲ貪ル者ハ必辱シメラル省心雜言
 ④未ダ就ラザルノ功ヲ圖ランヨリハ已ニ成ルノ業ヲ保
 ノニ若カズ既往ノ失ヲ悔インヨリハ將來ノ非ヲ防グニ
 若カズ醒金格言

④喜ニ乘ジテ言ヲ多
 クスベカラズ快ニ乘
 ジテ事ヲ易クスベカ
 ラズ薛文清

④病ハ小シク愈ルニ
 加ハリ禍ハ懈惰ニ生
 シ孝ハ妻子ニ衰苑說
 ⑤得意ノ物件ハ懼ル
 ベシ喜ブベカラズ失
 意ノ物件ハ慎ムベシ
 驚ク可ラズ言志臺襟
 ⑤君子ハ安ケレバ危

⑤名ヲ成スハ毎ニ窮
 苦ノ日ニ在リ事ヲ敗
 ルハ多ク得意ノ時ニ
 在リ 紳瑜

キヲ忘レズ存スレバ亡ヲ忘レズ治マレバ乱ヲ忘レズ易經
 ⑤徳ヲ積ムノ事人皆富貴ニシテ然ル後其レカメ為スベ
 シト謂ヘリ抑知ラス富貴ナル者ハ徳ヲ積ムノ報ナル一
 ヲ必富貴ヲ待テ而シテ後徳ヲ積ムハ則富貴ハ何ノ日

ニ得ベキヅ徳ヲ積ム
ノ事ハ何ノ日ニ為ス
ベキヅ惟富貴ナラザ
ル時ニ於テ能クカメ
テ善ヲ行ヘバ其業尤
モ難クシテモ其功ハ
尤モ倍スト為スナリ
朱用仁
六 思ヒ内ニ在レバ色
外ニ顯ハル 夢草
六 隱レタルヨリ見ハ
ル、ハ莫シ微カナル
ヨリ顯ラカナルハ莫シ

六 凡父兄師友ト道ヲ
可ラザル者ハ為ス可
ラズ凡父兄師友ト為
ス可ラザル者ハ道ヲ
可ラズ 畜徳錄
七 君子ノ事ニ於ケル

六 暗夜ニ人無シト雖
モ自身乍チ自身ヲ見
ル 吾新吾積小兒語
七 知者ハ言ヲ慎ミ行
ヲ慎ミテ身ノ福ヲナ
ス愚者ハ易ク言ヒ易
ク行ラテ身ノ福ヲナス
賈誼書
七 善ヲ行フテ樂ヲ感
ズルハ影ノ形ニ隨
フ如ク惡ヲ作シテ
苦ヲ招クハ猶聲ノ響
ヲ發スルが如シ 勸善書

ヤ其行ハザルヲ得ザ
ル所ヲ行ヒ其止メザ
ルヲ得ザル所ヲ止ム
言ニ於ケルヤ其語ヲ
ザルヲ得ザル所ヲ語
リ其默セザルヲ得ザ

⑦我如シ善ヲ為セバ
 一介ノ寒士タリト雖
 モ人其徳ニ服スル
 有リ我如シ惡ヲ為セ
 バ位人臣ヲ極ムト雖
 モ人其過ヲ議スル
 一アリ願體集

ル所ヲ默ス故ニ尤悔
 寡シ呂新吾語錄

第四 勉學

①學問ノ人ヲ導ビク
 一ハ猶夜行ノ燈ニ依
 ルガ如シ燈ナケレバ
 則遂ニ正路ヲ誤リ以

①事ハ強勉ニ在ルノ
 ミ強勉シテ學問スレ

テ千歳ヲ耻未遺スニ
 至ル思ハサル可ケン
 ヤ修身錄

バ則見聞博クシテ智
 益明ナリ 董仲舒

①少ニシテ學ベハ則
 壯ニシテ為ス一有リ壯ニシテ學ベハ則老イテ衰ヘズ老
 イテ學ベハ則死シテ朽チズ 言志晚錄
 ②外物ノ味ハ久シケレバ則厭フベシ讀書ノ味ハ愈久シ
 ク愈深ケレバ則厭ク一ヲ知ラズ 薛文清

②書ヲ讀マザル人ハ
 富貴ナリト雖モ不幸
 ナリ書ヲ多ク讀ム人
 ハ貧賤ナリト雖モ幸

②書ヲ讀メバ天地万
 物ノ理ニ通ジ天下古

大ナリ 文武制

③貧シキ者ハ書ニ因

テ富ミ富メル者ハ書

ニ因テ貴シ 古文真宝

③士ノ學ニ於ケルヤ

猶農夫ノ耕スカ如シ

農夫耕サレバ則食

フ所ナシ食フ所ナケ

レバ則生クルヲ得

ズセノ學ニ於ケルモ

亦一日モ舍ツベカラズ ニ程全書

③善カ學フ者ハ志倦

今ノ事ヲ知ル其樂大

ナラズヤ 初學訓

③人ノ學バズシテ道

ヲ知ラザルハ農人ノ

田ツクルヲ知ラガ

ルガ如シ 五常訓

マズ心盈タズ一善ノ聞カザル一理ノ知ラザルヲアレバ

歎然トシテ飲食ノ飽カザルガ如キナリ 慎思錄

④日ニ其亡キ所ヲ知り月ニ其能クスル所ヲ志ル、一ナ

キ學ヲ好ムト謂フベキノミ 論語

④書ヲ讀ムニ今日一

段ヲ省明日一段ヲ省

ルガ如クシ又今日一

事ヲ理會シ明日一事

ヲ理會スルガ如クシ

積習多クシテ後自然

ニ貫通ス 學的

④學問ノ要ニツアリ

其未ダ知ラザル所ヲ

知り其已ニ知ル所ヲ

行フニアルノミ 慎思錄

ニ相須リ目ノ足ナケ
レバ行カズ足ノ目ナ
ケレバ見エザルが如
シ朱子

⑤ 學問ハ知ルト行フ
ト並ビ進ムヲ善トス
知ルト行フト少シノ
前後ハアレハ先キダ
ズ後レズ一度ニツレ立チ行クヲ並ビ進ムト云フ知レ
ルバカリニテ行ハザルハ並ビ進ムニ非ズ 大和俗訓
⑤ 君子ハ博ク學ンデ其習ハザルヲ患フ既ニ之ヲ習ヘバ
其之ヲ行フ能ハザルヲ患フルナリ 說苑

⑤ 一事一語モ必之ヲ

知ラン一ヲ求メ一善

一禮モ必之ヲ學ンデ

行フベシ 童子習

⑥ 學問ハ知ト行ト並

ビ進ムヲ善シトス知

レルバカリニテ行ハ

ザルハ並ビ進ムニア

ラズ 大和俗訓

⑥ 讀書ハ記誦ニ在ラ
ズ全ク身ニ體シカノ
行フヲ要ス若シ身ニ
體シカノ行ハザレバ
書五車ヲ讀ムト雖モ
究竟書ハ是書我ハ是
我ニシテ全ク相干セ
ズ夫聖賢訓ヲ垂レ人
ヲ教フルノ意ハ天下
後世ヲシテ皆聖賢ノ
爲ス所ニ效ハシメント欲スルナリ若シ徒ニ記誦詞章ヲ
以テスル者ハ亦聖賢ノ罪人タラズヤ 人事通

⑦勉ムルハ足ラズトスルヨリ生ズ勉メザルハ足ルトスルヨリ生ズ足ラズトスレバ則勉ム勉ムレバ則進ム足ルトスレバ則勉ムズ勉メザレハ則止ム 儒門要語

⑦君子ノ學ハ必日ニ新ナリ日ニ新ナル者

⑦前句ヲ讀マバ後句ナキガ如クシ此ノ書ヲ讀マバ他書

⑦已ニ知ルモ未ダ知ラザルガ如クシ已ニ能クスルモ未ダ能クセザルガ如クスレバ則進ム 讀書錄

ハ日ニ進ム日ニ新ナラザル者ハ必日ニ退ク程子

ナキガ如クス凡書ヲ

讀ムノ法專一ナル此ノ如クスベシ得ル

⑦讀書講學ハ須ク尋思推窮シテ必其義ヲ

解説スベシ若シ疑難ノ處アラバ便チ當ニ

質問シテ是非ヲ分辨シ以テ其理ヲ窮ムベシ

⑧問フテ好メバ則裕ナリ自ラ用フレバ則小ナリ書經

⑨書ハ先ツ須ク熟讀シテ其言皆吾口ヨリ出ヅルガ若ク

⑧君子ハ學ブテ羞バズ問フテ羞バズ問訊ハ知ルノ本ニシテ念慮ハ知ルノ道ナレバナリ 童子問

ナラシメ繼グニ精思
ヲ以テシ其意ヲシテ
皆吾心ヨリ出ヅルガ
若リナラシムベシ的學
⑨書ノ記セザルハ熟
讀スレバ記臆スベシ
義ノ精シカラザルハ
細思スレバ則精シカ
ルベシ唯志ノ立タザルアレバ是乃チカラ著クル處ナシ同上
⑩凡書ヲ讀ムニハ忙ハシク早ク讀ムベカラズ詳緩ニ讀
ミテ字々句句々分明ナルベシ一字ヲモ誤ルベカラズ
童子訓

⑨書ヲ讀ム一多シト
雖モ若シ精熟セザレ
バ少ナクシテ精熟ス
ルニハ若カズ胡敬齋

第五 改過

①人ノ目ハ百里ノ遠
キヲ見レ其背ヲ見
ズ明鏡ト雖モ其裏ヲ
照サズ是ヲ以テ人智
アリト雖モ我身ヲ過
ヲ知リ難シ故ニ君子
ノ學ハ專ラ我身ヲ省
ミ人ノ諫ヲ聞キ用
ヒ過ヲ知テ改ムルヲ
旨トス 大和俗訓

①知ハ疑ヲ棄ルヨリ
大ナルハ莫シ行ハ過
ナキヨリ大ナルハ莫
シ事ハ悔ナキヨリ大
ナルハ莫シ 荀子

一 舊習最モ事ヲ害ス吾進マント欲スレバ彼則吾ノ進ム
ヲ止メ吾新ニセント欲スレバ彼則吾ノ新ニスルヲ汨ル
甚ダ惡ムベシ能ク之ヲ刮リ絶ツベシ 讀書錄

二 善ヲ爲スハ惡ヲ捨ツルニ如カズ過ヲ救フハ非ヲ省ク
ニ如カズ 省心雜言

三 過ハ必氣質ノ偏ヨ

リ起ル剛ナル人ハ心
強キ所ヨリ過起リ柔

ナル人ハ心弱キ所ヨ

リ過起ル學者常ニ我
氣質ノ偏ヲ察シテ其
過ヲ顧ミ改ムベシ此

三 常ニ我身ヲ省ミテ

先ヅ我過ヲ知ルベシ

既ニ過ヲ知りナバ速

ニ改ムベシ 大和俗訓

ノ如クセザレバ學問ノ益ナシ 大和俗訓

二 譽メテ當ル者ハ我友ナリ宜ク勗メテ以テ其實ヲ求ム
ベシ毀リテ當ル者ハ我師ナリ宜ク敬シテ以テ其訓ニ從
フベシ 言志臺錄

三 夫過ハ大賢モ免レザル所ナリ然レニ其卒ニ大賢タル
ヲ害セザル者ハ其能ク改ムルガ爲メナリ 王陽明文集

三 生質柔弱ナル人ハ
平生怠リテ月日ヲ送

ルホドニ過日頃ノ非
ヲ悟レニ多年過リ來

レバ今ヨリ改メ悔ユ
ルトモ事ノ用ニ立ツ

三 我人聖人ニアラ子

バ誰カ過ナカラシ唯

一念發起シテ已ガ非

マシトテお捨テヌル
人アリ大ナル僻事ト
云フベシ六論行義大意

③人ノ事ヲ處スルハ
能ク常ニ往事ノ非ヲ
悔イ常ニ前言ノ失ヲ
悔イ常ニ往年ノ未ダ
知識アラザルヲ悔
ユレバ其賢徳ノ進ム
ト所謂日ノ益々長ク
ナリテ人自ラ知ラザ
ルガ如キナリ二程類語

ヲ改ムレバ今日ヨリ

シテ善キ人ナリ

譬ヘバ道ニ踏ミ迷フ

人ノ一タビ足ヲ轉シ

テ引キ返セバ本道ニ

出ヅルガ如シ六論行義大意

④衆人ハ往々其過ヲ

聞クトヲ喜バズシテ
諫ヲ拒ミ過ヲ文ル是
自ラ用フレバ則小ナ
ルノ至ニシテ不智ノ
甚シキモノナリ慎思錄
④仲由ハ過ヲ聞クト
ヲ喜ビ令名窮リナシ

④凡人ノ惡事多キ中

ニ諫ヲ言フ人ヲ惡ミ

嫌ヒ我過ヲ改メザル

ホド大ナル惡ハ莫シ初學訓

今ノ人過アレハ人ノ規スリヲ喜ビズ病ヲ護シテ醫ヲ忌
ムガ如シ寧口其身ヲ滅シテモ悟ルコトナキナリ周子

⑤一善ヲ見テハ須ク勇ミ直チニ進ミテ猶豫セザルベシ
然ラザレバ其善日ニ渝ル一惡ヲ見テハ須ク悔イテ極艾

シ務メテ其除スベシ
然ラザレバ其惡日ニ
長ク 無遠大業

⑤夫酒食ハ人ノ愛ス
ル所ノ者ナリ而シテ
人相見ルキハ進メザ
ルナシ彼レ之ヲ嗜ム
ヲ以テナリ故ニ忠言
ノ出デザルハ未ダ之
ヲ嗜ムハ有ラザルヲ
以テナリ 徐偉長

⑥君子ハ水ヲ以テ鏡トセズシテ人ヲ鏡トス 墨子

⑤善ニ遷ルハ當ニ風
ノ速ナルガ如クナル
ベシ過ヲ改ムルハ當
ニ雷ノ猛キガ如クナ
ルベシ 朱子

⑥耳中常ニ耳ニ逆フ
ノ言ヲ聞キ心中常ニ
心ニ拂ルノ事アレバ
纔ニ是徳ニ進ミ行ヲ
修ムルノ砥石ナリ
⑥善人ハ不善人ノ師 葉根談
不善人ハ善人ノ資ナ
リ 老子

⑥其容ヲ飭ル者ハ皆
能ク明鏡ヲ窺フ其徳
ヲ修ムル者ハ哲人ニ
近クニ如カズ 帝範

⑥善ク人ノ言ヲ用ヒ
人ノ諫ヲ聞クモノハ
必過寡ク行ヒ正シク
シテ善キ譽アリ 大和俗訓

⑦人ノ一言ヲ得ルハ
千金ニ勝レリ千金ハ

④ 苟モ過ヲ聞カント
欲セバ但當ニ一一容
受スベシ復其虚實ヲ
計ラザレバ則事大小
トナク人皆告グルヲ樂
ンデ隱情ナカラシ

得易シ好言ハ求メ難
シ願體集

⑦ 過ヲ聞クコトヲ喜ブ者ハ忠言日ニ至ル過ヲ聞クコトヲ惡
ム者ハ諛言日ニ至ル

身世準繩

⑧ 人過アリテ自ラ知
明ナリ須ク己ヲ虚ク
シテ下問シ聞クコトヲ
得テ之ヲ改ムベシ若
シ或ハ規諫ヲ喜バザ

⑧ 善ヲ好ミテ厭フコト
ナク諫ヲ受ケテ能ク

レバ人我ニ告グルコト
ナシ必潰敗シテ收拾
ス可ラザルニ至ル而
シテ後知テ之ヲ悔ユ
ト雖モ亦及ブコトナシ
是ヲ以テ貴キコトハ過
ヲ改ムルヨリ貴キハ莫ク

誠ムレバ德行進マザ
ラント欲スト雖モ得
可ケンヤ 荀子

第六 勤儉

① 勤儉ノニツハ家ヲ
治ムル要道ナリ此ノ

① 勤ムレバ貧ニ勝チ

ニツノ道行ハルレバ
貧窮ニ至ラズ財用ニ
乏シカラズ 家道訓

①節儉ヲ守リ身ヲ慎
ミ風俗ヲ乱ル_レ勿レ
官室ヲ飾リ衣服ヲ美
ニシ以テ人ニ誇ルハ

君子ノ耻ヅベキ所ナリ
②大ニ富メル人モ財ヲ用フル道ヲ知ラザレバ後ハ必貧
窮ニ若シム薄祿ノ家モ財ヲ用フルニ道アレバ貧苦ナシ 家道訓

③名門右族ヲ見ルニ祖先ノ忠孝勤儉ニ由テ以テ之ヲ成
立セザルハ莫シ 柳菴

慎メバ禍ニ勝ツ 古語

②富足ハ儉約ヨリ生

ジ貧困ハ奢侈ヨリ起

ル 初學知要

③家業ハ先祖碎身ノ
功績ト陰徳トノ餘慶
ナリ親能ク守リ得テ

我ニ讓レリ我能ク守
リテ子ニ讓ルハ孝ナリ

④儉約ノ益ハ一端ニ
止マルニ非ズ大凡貧
淫ノ過ハ未ダ奢侈ヨ

リ生ゼザル者ハアラス儉ナレバ則貪ラズ淫セズ是以テ
徳ヲ養フベキナリ奢レバ則妄ニ取リ苟モ求メテ志氣卑

辱トナル一タビ儉約ニ從ヘバ則人ニ於テ求ムル_レ無リ
己ニ於テ愧ヅル_レナシ是以テ氣ヲ養フ可キナリ 羅景倫

③其家儉ナレバ則福

慶子孫ニ流ル奢レバ

則凶禍後嗣ニ傳ハル

慎マザル可ケンヤ 童子習

⑤ 財祿ハ限アリ私慾ハ限ナシ限アル財ヲ以テ限ナキ慾ニ任セテハ必財竭キテ困窮ス家道訓

⑤ 財ヲ用フルノ法ハ得ル所ノ財ノ分量ヨリ寡ク用フルハ善シ得ル所ヨリ過ギテ多ケレバ財不足シテ困窮トナル戒ムベシ是ヲ入ルヲ量テ出ス一ヲ為スト云フ同上

④ 人各志ヲ高ブラズシテ我ニ當リタル職分ヲ務メバ自ラ我ニ當リタル衣食アリテ一生安穩ニシテ暮スベシ六諭行義大意

⑤ 凡人ノ用度足ラザルハ率子心ノ侈ルニ因ル心侈レバ則非分ニシテ以テ入り旋々非分ニシテ以テ出ツ貧ナレバ固ヨリ足ラズ富メルモ亦足ラズ張履祥

⑥ 錙銖ヲ惜ムハ織畜畜ニ似タルモ之ヲ久シクスレバ覺エズシテ日ニ益ス毫毛ヲ損スルハ損ナキニ似タルモ之ヲ久シクスレバ覺エズシテ日ニ消フ何瑾

⑤ 天地生ズル所ノ財物ハ固ヨリ以テ人ノ用ニ供スルナリ然レ氏必節シテ妄ニ費サズ愛惜セヨ胡師蘓

⑥夫一人儉ヲ知レバ
則一家富ム王者儉ヲ
知レバ則天下富ム蓋
奢ル者ハ三歳ノ計一
歳ニ之レ用フ奢ル者
ハ富ムモ足ラズ儉ナ
ル者ハ貧キモ餘アリ
奢ル者ハ心常ニ貧シ
ク儉ナル者ハ心常ニ
富ム 譚子

⑥一粥一飯モ當ニ來
處ノ易カラザルヲ
思フベシ半絲半縷モ
恒ニ物力ノ維難キヲ
思フベシ 治家格言

⑦吝嗇ナレバ禮義ヲ
輕ンシ貨財ヲ重ンジ
且親ニ奉ズルヲ菲薄
ニ下ラ使フヲ慘刻ナ
リ人ノ窮ヲ視テモ眼
ハス一能ハズ人ノ恩
ヲ受ケテモ報ヲナサ
ズ積メ而モ散ズル
一能ハズ滿テモ而モ
施ス一ヲ知ラズ所謂
守錢虜タルノミ初學
⑧君子ノ其財ヲ棄テ

⑦儉約ヲ行フニ托シ
テ財ヲ惜ミ禮義ヲ缺
ギ仁愛ヲ施サズルハ
是吝嗇ナリ不徳ナリ
⑧古人ノ儉ヲ務ムル
者ハ其施サンガ爲メ

テ貧窮ヲ救フ者ハ其財ヲ愛マザルニ非ズ其財ヲ愛ム一甚シクシテ之ヲ德義ニ用ヒント欲スルナリ慎思録

ナリ儉ニシテ施ス一ヲ知ラザレバ儉トハ謂フ可ラズ 童子問

八 儉ハ君子ノ徳ナリ世俗ノ儉ヲ以テ鄙ト為スハ遠識非ザレバナリ儉ナレバ則財用足ル儉ナレバ則求メテ寡クス儉ナレバ則以テ家ヲ成スベシ儉ナレバ則以テ身ヲ立ツベシ儉ナレバ則業ヲ子孫ニ傳フベシ倪思

第七 愛日

一 人生最モ日ヲ愛ムベキノ時アリ幼弱ノ時ハ記臆ト精カト俱ニ盛ナリ故ニ博聞強記ノ功成リ易シ一タビ記誦スレバ終身忘レズ此ノ時精勵セバ則一日ノ功以テ十日ニ當ル可シ此學者當ニ日ヲ愛ムベキノ時ナリ慎思録

一 人一生ニ享クル所ノ光陰幾バクゾヤ之ヲ愛惜スルヲ知ラズ浪リニ費セバ終ニ禽獸ト異ナル一無シ造物ノ人ニ賦スル所

者ハ一生ヲ以テ万載ノ業ヲ爲シ一日ニシテ數百年ノ休ヲ遺コ不 奮德錄

① 人生小幼ナル中ハ精神專利ナリ長成已後ハ思慮散逸ス固ニ須ク早ク教ヘテ機ヲ失フ勿ルベシ類氏家訓

① 發シテ然シテ後禁ズレバ扞格シテ勝ヘズ時過ギテ然シテ後學ミバ勤勞シテ成リ難シ礼記

② 學者ノ學ヲ講シ業ヲ勤ムル皆時日ノ力ヲ以テス故ニ

豈徒ニ五體ヲ具ヘテ天地ノ間ニ喘息シ蟲蟻ト並活セシムル而已ナランヤ 陳獻章

志士ハ日ノ短キヲ惜ム 慎思錄

② 光陰惜ムベシコレヲ逝水ニ譬フ 類之

② 聖人ハ尺璧ヲ貴バズシテ尺寸ノ陰ヲ貴ブ 淮南子

② 餘リアルヲ待テ人ヲ救ハシ必人ヲ濟フノ日ナカラン暇アルヲ待テ書ヲ讀マバ終ニ書ヲ讀ムノ時ナカラン神琦

② 大抵家務冗幹既ニ多シ此已ム可ラザルモノナリ若シ

② 人生百歳ニ滿タズ 豈放蕩シテ日ヲ曠フシ空ク斯ノ生ヲ過ゴス一ヲ惜マザル可ケンヤ 慎思錄

其餘時ニ於テ又急ナラザルノ雜務ヲ以テ虚シク光陰ヲ費サバ則是終ニ書ヲ讀ムニ時ナカラシム朱子

③昨日ヲ送り今日ヲ迎へ今日ヲ送り明日ヲ迎フ人生百年此ノ如キニ過ギズ故ニ宜シク一日ヲ慎ムベシ一日慎

マザレバ醜ヲ身後ニ遺コス恨ムベシ言志 晩録

③今日學バズシテ來日アリト謂フ勿レ

今年學バズシテ來年アリト謂フ勿レ

③古人云フ一日モ常業ナカル可ラズ安間

③大禹ハ聖人ナレ氏

乃寸陰ヲ惜メリ衆人

ニ至テハ當ニ分陰ヲ

惜ムベシ豈逸遊荒醉

ナレバ便チ邪心ヲ起シ易シト凡間居無事

ナラバ或ハ書史ヲ涉獵シテ以テ才學ヲ廣メ或ハ心ヲ本業ニ留メテ以テ生理

ヲ全フス庶ハクハ虚ク光陰ヲ度ラズ生ヲ偷ムノ謂ヲ免レ知世事

④其人タルヤ暇日多ケレバ其人ニ出ヅル子ト遠カラズ

④今人率子口ニ多忙ヲ説クモ其為ス所ヲ視ルニ實事ヲ整頓スル子ト十二ニ二

間事ヲ料理スル子ト十ニ八九ナリ又間事ヲ認メ以テ實事トナス

ス可ケンヤ 陶侃

④閑話ヲ説ク子勿レ

恐ラクハ光陰ヲ費サ

宜ベ其多忙ナルヲ志
アル者誤テ此ノ窠ヲ
踏ムト勿レ言志錄

④士君子ハ常日自ラ
其為ス所ヲ点檢シテ
昼ニ思ヒ夜ニ念ヒ一
時モ間却スルヲ得
不畜德錄

⑤人少壯ノ時ニ方リ
テ陰ヲ惜ムト知ラ
不知ルト雖モ太ダ惜
ムニ至ラズ四十已後

ン雜書ヲ觀ルト勿レ
恐ラクハ精力ヲ分ク
ン朱子

⑤日晷一タビ移レバ
千年再タビ來ラズ人
生一タビ死スレバ万

ヲ過ギテ始メテ陰ヲ
惜ムト知ル既ニ知
ルノ時ハ精力漸ク耗

古再タビ生ゼズ省儉錄

ス故ニ人學ヲ為サバ須ク時ニ及ビテ志ヲ立テ勉勵スル
ヲ要スベシ不ラザレバ則百タビ悔ユルモ亦竟ニ益ナシ言志錄
⑤今日為サレバ明日貸ヲ亡ナフ昔日己ニ往キテ而シ
テ來ラズ管子

⑥三十歳以後ハ万ノ務メ多クナリテ暇少ク精力ヤウク
弱クナルニ隨ヒテ其
記臆衰ヘヌレバカヲ
多ク用ヒテモ忘レ易
ク勞スレト功少シ古
⑥人身得難シ虚ク過
スト勿レ顔之推

詩ニ少壯ニシテ努力セザレバ老大ニシテ徒ニ傷ミ悲マント云ヘリ少カキ時之ヲ善ク考ヘ後悔ナカラシテヲ思ヒ時日ヲ惜ミテ勤ムベシ 大和俗訓

⑦若シ人ノ道ヲ知ラデ空ク此世ヲ過シナバ人ト生マレタルカヒナカルベシ 大和俗訓

⑥人ノ生ルヤ百歳ノ中ニハ疾病アリ老幼アリ故ニ君子ハ其復ス可ラザル者ヲ思ヒテ先ガ施ス親戚既ニ没セバ孝セント欲スト雖王誰ガ爲メニ孝セン年既ニ耆艾ナラバ悌セント欲スト雖モ誰ガ爲メニ悌セン 礼記

通教

一 父慈ニ子孝ニ兄ハ良ニ弟ハ悌夫義ニ婦聽ニ長ハ惠ニ幼ハ順君仁ニ臣忠ナル十ノ者之ヲ人義ト謂フ 礼記
一 君子ハ親ニ事ヘテ孝ナリ故ニ忠君ニ移スベシ兄ニ事ヘテ弟ナリ故ニ順長ニ移スベシ家ニ居テ理マル故ニ治官ニ移スベシ 孝經
一 人賢ニ非ザレバ交ハル莫レ物義ニ非ザレバ取ル莫レ事善ニ非ザレバ説ク莫レ謹ム片ハ憂ナク忍ブ片ハ辱ナシ静ナレバ常ニ安ク儉ナレバ常ニ足ル 醒世格言
一 儒者ハ忠信以テ甲冑トシ禮義以テ干櫓トシ仁ヲ戴キテ行キ義ヲ抱キテ處ル 家語

一古灵ノ陳先生仙居ノ令タリシ時民ニ教ヘ命セラレケ
ルハ今日ヨリ以後吾領内ノ民タラン者ハ父ハ義ヲ以
テ子ヲ教ヘ母ハ慈愛ヲ以テ子ヲ憐ミ兄ハ弟ヲ慈ミ弟
ハ兄ヲ敬ヒ子ハ親ニ孝シ夫婦ハ相互ニ恩愛ヲ垂レテ
見捨テス男女ハ別アリテ相乱レズ人ノ子タル者第々
ル者ハ學校ヘ出テ、學問シ里人共ハ互ニ禮義ヲ以テ
相交ハリ貧ナル者ト難ニ逢ヘル者トハ親類共ヨリ相
救ヒ嫁入りノ時又ハ人ノ死スルカ喪ニ遇ヘル時ナド
ハ隣近所ノ組ノ者共相互ニ是ヲ助ケ農業ニ怠ラズ盜
賊ヲナサズ賭勝負ヲ禁シ争ヒ訴フル1ヲ好マズ惡ヲ
以テ善ヲ凌ガズ富メルヲ以テ貧キ者ヲ追ヒ倒サズ行
ク者ハ道ヲ讓リ耕ス者ハ畔ヲ讓リ老タル者ニハ荷擔

致サス可ラズト仕置キセラレケル大和小學

小學修身鑑卷之八終

學倫身錄 卷之六 星來館

明治十九年三月二十日版權免許
同 年四月 刻成

福岡縣士族

定價金九錢五厘

編輯人 吉田利行

福岡縣福岡區福岡濱ノ町廿貳番地

福岡縣平民

出版人 右田喜久郎

福岡縣福岡區博多掛町拾壹番地

小學修身盤

星來館

小學修身鑑

卷九

266
493

大日本教育會館
一九一八
函架號册